

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

令和3年11月17日 VOL. 159

“医療・介護・福祉フォーラム2021”

地域で看取り看取られるために



令和3年11月3日（水・祝）志太医師会講堂を会場に「第10回 医療・介護・福祉フォーラム2021」【主催：藤枝市 志太医師会（会長：錦野光浩氏）】を開催しました。

今回は「**地域で看取り看取られる～スピリチュアルケアのすすめ～**」をテーマに非営利一般社団法人「大慈学苑」を設立し、看護師、僧侶、スピリチュアルケア師、ケアマネジャー、看護教員として活躍されている**玉置妙憂先生**をお招きし講演をいただきました。

当日は、50名の方が来場し、WEBによる参加が170名以上と多くの方の聴講がありました。

1976年以降、看取りの場の1位は在宅から病院へと移り、介護者が在宅で看取りを行うことが稀になりました。介護保険制度が開始され、在宅での介護が増え、現在は、高齢者人口の増加に伴う多死時代を迎え、専門職の意識も「**在宅で看取ることができる**」との意識に大きく変わっています。

玉置先生の講演では、自分の死や身近な人の死に直面したとき、人は「死んだらどうなるんだろう」等、問われても答えられない言葉を発することがある。この言葉を掛けられた人は、「**黙って、ただ聴くこと**」が大切で、これが**スピリチュアルケア**を成立させるというお話があり、看取りに立ち会う医療・介護の職員・介護者にとって今後の関わりへの大きな指南となりました。

また、答えられない問いかけを向けられる医療者・介護者も同じように苦しみを負っている人であり、看取りを支援する人へのケアも大切であることのお話がありました。



参加者の感想から

- ・ 離れて暮らす祖母を母やその兄弟で介護したり看取ったところを身近で見えていたのですが、自宅で最期までは簡単ではないなあと思いつく思いました。でも、なるべく家で最期まで過ごしてほしいと思っていたところ、母と一緒に聞けて、いろいろ話せてよかったです。
- ・ 病院で最期を迎える方が多く、今の子どもたちが「死」ということが身近に感じられなくなったこと、延命治療への家族の葛藤、私もいずれは経験するであろう問題への覚悟ができました。
- ・ 現代医学の現状や本来のスピリチュアルの話など、とても興味深くおもしろかったです。黙って聞くこと、今後にとっても役立ちそうです。

「人の器は、守るべき人の数と、どれくらい先のことを考えているかで決まります。死について考えたことのある人は、人間の器が大きくなるんじゃないかなと思っています」講師談

本市では、志太医師会在宅医療サポートセンター（センター長：杉浦正司氏）と協働し、「**平穏死を考える集い**」などを通して、市民とともに「平穏な最期」や「より良く生きるために」などについて語り、市民と共に学び合う機会を設けていきます。

バックNoの検索は

